

自尊と敬虔

和木中学校だより 第2546号

令和7年3月3日（月）

〒740-0061 和木町和木2丁目5番2号

TEL 52-4328 FAX 52-5265

和木中Webページ <http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~waki-jhs/>



支えに感謝しながら
自分の思いで飛んでいけ



校長 鬼武伸哉

3年生が本校を巣立つ「令和6年度第78回卒業証書授与式」までほんの僅かな日数を残すのみとなりました。今週の金曜日には、70名の生徒が卒業式を迎え、開校以来の卒業生総数は7,607名となります。3年生の授業を参観すると、いつ教室に入っても明るく和やかなムードに包まれます。その居心地の良さに甘えて、ついつい長居してしまう自分に気付くことがよくあります。彼らが学び合う場から、大人に近づく自己を意識した集団のプライドを実感することさえあります。この時期の3年生の姿には、本町園小中の連携教育の成果が具現化されているとも言えるのではないのでしょうか。その意味では、園や学校内にとどまらず、地域の多くの方々に支えられ、様々なご指導を受けながら卒業式を迎えようとしていることに卒業生全員が素直に感謝し、義務教育の過程を修了してほしいと心から願っています。ここで、昨年5月1日に発行した「自尊と敬虔」第2536号から、亀谷秀雄前校長のコメントを再び引用させていただきます。この学校だよりのタイトルに、歴代の校長が本校生徒にこうあってほしいという願いを込め続けてきたと信じているからです。

「自尊」には、「生徒がお互いに励まし合い、自分と仲間を大切にしてほしい」という思いが込められています。「敬虔」の「敬」と「虔」は、ともに「つつしむ、へりくだる」という意味があり、「学校で学ぶすべてのことに対して感謝して素直に学んでほしい」という願いが込められています。

本町が展開する「和木学園」の構想どおり、私たちは生まれてからお墓に入るまでのライフステージの中で、生涯学び続ける必要があると思います。誰もが生徒となり、先生となることを前提条件に、学び合う謙虚な姿勢の追求を決して怠ってはいけないと思います。互いに励まし合い、自分と仲間を大切にする環境の中で、生涯、学べることに感謝しながら学び続ける。恥ずかしながら、記事の質は「自尊と敬虔」に全く追いついていませんが、生涯学習の理念とも言えるこのタイトルを卒業生だけでなく、全校生徒の皆さんに再認識してほしいと思います。

ここで亡き父が好きでよく口ずさんでいた歌を卒業生へのはなむけに紹介させていただきます。本県周防大島町出身の星野哲郎さんが今から半世紀以上前に作詞された「三百六十五歩のマーチ」の一節です。

「

父は体や心が苦しい時、一歩ずつでいいから前へと自分を励ますためにこの歌を心のよりどころにしていたように思います。卒業生の皆さんの前途にも、楽な道ばかりでなく、歩みを進めることが困難な道が待ち受けていることもあるかもしれません。苦勞して学び続けるからこそ得られる幸せを求めて、手探りで一歩ずつ前進してほしいと思います。

三百六十五と言えば、やはり作詞家の秋元康さんがアイドルグループAKB48のために書かれた「365日の紙飛行機」が私は大好きです。

紙飛行機は、本来自分の思いで空中を飛んで行くことはできません。しかしながら、卒業生の皆さんには自分の意志で風の流れを読み取り、機体をコントロールするくらいの意気込みを期待します。ただし、繰り返しになりますが、周りにいる仲間の支えに感謝することと自分の思いを大切にすることとのバランスを上手に取りながら飛び続けてください。皆さんが大空を颯爽と舞う姿を心に描くだけで、気持ちが華やかになります。

保護者の皆様、地域の皆様には、この1年間、本校の教育活動の推進にご協力を賜り、心より感謝申し上げます。来年度も引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

自由参観日へのご来校、ありがとうございました

1月30日（木）から2月1日（土）までの3日間、自由参観日を行いました。3日間で、延べ102名の保護者にご来校いただき、本校の教育活動を参観していただきました。地域の方々にもご来校いただき、誠にありがとうございました。中でも、キャリア教育の一環として31日（金）に1年生が実施した「職業調べ発表会」と1日（土）に2年生が実施した「立志のつどい」については、多くの方々に参観いただきました。1年生は自分たちが興味・関心のある職種から職業を調べました。タブレットを活用し、調べたことを「キーノート」や「パワーポイント」といったプレゼンテーション用ソフトを使用して、効果的に、わかりやすく伝えていました。2年生の「立志のつどい」については、生徒一人ひとりの決意を漢字一文字に表し、どのように生きていきたいかを決意の言葉として発表しました。また、中学校に入学してから本日の足跡を各種行事の写真を使用して振り返りました。個人的には、2年生保護者のお子様へのメッセージを目にすることで、思わず涙が頬を伝いました。子どもたちのためにメッセージをお寄せいただき、ありがとうございました。最後に、学年合唱「この星に生まれて」の演奏で、つどいを素晴らしい形で締めくくりました。1、2年生ともに、今後の学校生活や進路選択につながる充実した活動になったと思います。来年度も各学期3日間の自由参観日を設定し、最終日を土曜参観日にしたいと考えていますので、保護者の皆様だけでなく、さらに多くの地域の皆様にもご来校いただけますと嬉しく思います。なお、来年度も土曜参観日には、コミュニティルームで和木町家庭教育支援チーム「はっちーず」と本校PTAの共催で「ちょこカフェ」を開催する予定です。来年度もお気軽にお立ち寄りください。



がん教育講演会、郷土料理実習、避難訓練で多くの方々にご指導いただきました

2月6日（木）に、がん予防教育講演会を開催し、中村クリニックの平野有美先生にがんについての基礎知識とがんを予防するために留意すること等についてご講話をいただきました。講話の中で、日本人の死因の第1位はがんという現状を踏まえ、どのような対策が必要か等について具体的にご指導いただきました。健康に気を付けながら日常生活を送る大切さを学ぶことができたと思います。

2月13日（木）と14日（金）の2日間、2年生が和木町食生活改善推進協議会の6名の方のご指導を受けながら、郷土料理「大平」の調理実習をしました。薄味にもかかわらず、食材のさといも、にんじん、れんこん、ごぼう、しいたけ、鶏肉等から味わえる旨味を堪能できる素晴らしい料理であることが笑顔で口にする生徒の表情や感想から伝わってきました。一口でいいから食べさせてほしいともう少しで言い出しそうになるのを我慢することが本当に辛いほどでした。

同じく、2月13日（木）に避難訓練を実施しました。地震による火災を想定した訓練でしたが、岩国地区中央消防署東出張所より6名の消防隊員が来校され、水消火器を使用した消火訓練のご指導をいただいた後、訓練全体についての講評をいただきました。もしもの場合に備え、自分たちの命は自分たちで守る意識を念頭に置き、こうした訓練を積み重ねていきたいと思います。生徒はとても真剣に避難訓練に取り組みました。

